

自民山陰4議席独占

民主比例含めゼロ

島根

1区 細田氏 盤石の8選
2区 竹下氏 大差で制す

第46回衆院選は16日投票開票され、山陰両県4小選挙区は自民党が独占した。島根1区は自民党前職の細田博之氏「公明党推薦」が、民主党前職(比例中国)の小室寿明氏、共産党新人の吉儀敬子氏に圧勝し8選。同2区も自民党前職の竹下巨氏「同」が民主党新人の石田祥吾氏、共産党新人の向瀬慎一氏を下し、5選を決めた。鳥取1区は自民党前職の石

破茂氏「同」が9選し、同2区も自民党前職の赤沢亮正氏「同」が3選を果たした。民主党は比例中国ブロックでも復活できず、議席ゼロに終わった。両県の投票率は島根県が前回選に比べ12・61ポイント増の65・74%、鳥取県は12・38ポイント減の62・92%で、ともに戦後最低となった。



当選確実のバラを指し、表情を緩める竹下巨氏＝16日午後8時54分、東京・永田町、自民党本部

自らの8選と、自民党の大勝を喜ぶ細田博之氏＝16日午後9時53分、東京・永田町、自民党本部

2区 **竹下 巨** (自民、前 雅公明)
 党組織運動本部長。1969年にNHKに入り、経済キャスターなどを務めた。85年から兄の故・竹下登元首相の秘書。2000年衆院選で初当選。慶応大経済学部卒。雲南市掛合町出身。東京都世田谷区下馬。当選5回。

1区 **細田 博之** (自民、前 雅公明)
 党総務会長。1967年、通産省(現経済産業省)入り。父の故・細田吉藏衆院議員の秘書を経て、90年に衆院選旧島根全県区で初当選。内閣官房長官、党幹事長を歴任。東京大法学部卒。松江市堂形町。当選8回。

鳥取選挙区開票結果

1区 (16日午後11時29分、選管最終)
 当124,746票 石破 茂 55 自前
 17,550票 塚田 成幸 48 共新
 5,325票 井上 洋 63 無新

2区 (16日午後11時29分、選管最終)
 当 87,395票 赤沢 亮正 51 自前
 45,728票 湯原 俊二 50 民前
 10,584票 福住 英行 37 共新

2区 当選者(敬称) **1区**

赤沢 亮正 (自民、前 雅公明)
 副委員長。1984年(現国土交通省)職に任じ、2005年の衆院選で初当選。東京大法学部卒。米子市日ノ出町1丁目。当選3回。

石破 茂 (自民、前 雅公明)
 銀行員を経て、1986年の衆院選で初当選。長年の防衛相、農相、立候補した。元元衆院議長。鳥取市上町。当選9回。

公明・斉藤氏7選 比例中国

比例代表・中国ブロック選挙区と重複立候補した、民自党前職(比例中国)の湯原俊二氏は、自民党が前回は1増の5議席と、公明党が前回選で失った2議席目を奪還した。民自党は逆風を受けて2議席にとどまり、共産、社民両党も得票が伸びず、議席獲得はならなかった。同党新人の石田祥吾氏(32)も同35・52%にとどまった。民主党は同ブロックに重複立候補した18人が、小選挙区で全員落選。前回6議席から4議席に減った。

鳥取

1区 石破氏 圧倒12万票
2区 赤沢氏 再対決圧勝

鳥取1区は野党転落の反省を前面に出し、謙虚、誠実、正直で丁寧な党に再生すると信頼回復をアピール。公明党支持層も手堅く取り込み、盤石の戦いを見せた。石破氏は野党転落の反省を前面に出し、謙虚、誠実、正直で丁寧な党に再生すると信頼回復をアピール。公明党支持層も手堅く取り込み、盤石の戦いを見せた。

鳥取2区は、40地域支部と党所属議員・市町村議、後援会がフル稼働した。前回選で湯原氏に3136票差で敗れた米子市では、公示直前の石破茂党幹事長の応援で勢いに乗って1万8千票以上の差をつけ、全11市町村でトップに立った。湯原氏は子ども手当の創設など民主党政権の実績を強調したが、党に対する有権者の不信感を払拭できず、米子市で苦戦。支持母体の連合鳥取が引き締めを図ったが、及ばなかった。共産党新人の福住英行氏は原発の即時廃炉などを訴えたが、赤沢、湯原両氏の激突の前に存在感を示せず、党公認候補の擁立を見送った前回選のプランを克服できなかった。

日間に限られる中、党支部役員、県議や市町村議が遊を伝える世論調査結果による説や推薦団体回りなどを精進を受け、楽観ムードによる力行的に行い、妻の洋さん(67)も企業回りを続け、不在の候補を支えた。

島根選挙区開票結果

1区 (16日午後11時2分、選管最終)
 当112,605票 細田 博之 68 自前
 47,343票 小室 寿明 52 民前
 14,173票 吉儀 敬子 61 共新

2区 (16日午後11時31分、選管最終)
 当135,270票 竹下 巨 66 自前
 48,046票 石田 祥吾 32 民新
 16,442票 向瀬 慎一 41 共新

2区

自民党前職の竹下巨氏が強固な組織力を生かし、全市町で他陣営を圧倒した。党組織運動本部長として選挙戦全体の実務を担い、候補自身の選挙区入りは5日間にとどめられた。吹雪もあって「即決選挙」は、高動員率の期待を胸に、定例議会の合同に企業などへのあいさつ回りで支持固めた。

テレビ欄は12面

3年余り政権の座にありながら、支持基盤を広げられなかったことが響いた。民主党前職(比例中国)の小室寿明氏は地域医療対策や地方交付税増額の実績、2030年代原発ゼロを訴える一方、自民党の公共事業や原発などに対する姿勢を強く批判した。しかし党への逆風で訴える批判票を取り込めず、自民、民主両党の争いに埋没。島根の動きも鈍かった。

それでも終始優勢を保った背景には、夏場を含めて各地で「つし立ち」するなど選挙区をきめ細かく歩いた豊富な運動量があった。6月以降は、200カ所での街頭演説や集会を敢行。消費税増税にも理解を求めた。

共産党新人の向瀬慎一氏は、2005年以來3度目の衆院選挑戦だったが、前回選で党が擁立を見送った影響も響き、原発即時廃炉などの訴えが浸透しなかった。